

## 即待機体制、救命士とともに出発

新潟県立新発田病院 DMAT

相 場 豊 隆

### 3月11日～14日

3月11日

14:46 発災

15:11 メールにて待機要請

17:00 新潟県から正式派遣要請

17:30 新発田消防：加藤・高橋救命士とともに出発。初期参集地点の福島県立医大に向かう。

22:00 二本松インターに到着して降り、国道4号線を北上するが、4号線ががけ崩れのため旧道しか使えず大渋滞。サイレンを鳴らして車の間をかき分けて進行した。

23:00 福島医大に到着。熊谷謙 新潟統括DMATが本部長として働いており、そこに報告して指令を待つ。その後本部機能の手伝いとして福島県内の病院の情報収集(各人の携帯電話使用)を施行。こちらは郡山市内・白河市内の医療機関に問い合わせを行う。

### 危険な悪路、衛星携帯が唯一の通話手段

3月12日

2:00 福島には約60隊のDMAT参集予定ということになり、先に着いた隊は手薄な北のほうに移動ということになって、当DMATと富山大学は岩手に向かうことになった。二本松インターから東北道で北上。雪とところどころの路面悪化(大きなものはなし)でやや危険を感じた。

6:00 盛岡南インターで降りて市内へ。災害専用ガソリンスタンドで給油。

6:30 岩手医大着。会議室で岩手医大の山田DMATに報告。県庁に入っている秋富DMATの指令を仰ぐ。ただ岩手でも通話事情は悪く、非常用回線もなかなかつながらず。11チームが沿岸部に出ているが、現地からの情報はほとんど上がってこないことが知らされた。

8:00 岩手の県本部から大船渡病院へ出向依頼

あり。片道100km程度とのこと。

11:00 大船渡病院着。同病院の山野目副院長・災害対策部長(脳神経外科)に報告。しばらく3階会議室にて待機。その間病院の構造の説明をうけ、これまでの搬入患者の様子などを職員から聴取。溺水の患者は化学性(重油?)の肺水腫を起こして処置をしてもすぐに呼吸不全になって死亡するとのこと。また外部との通信手段は衛星携帯以外はまったくないことが知らされた。

12:30 DMAT会議@大船渡病院

・これまで270名搬入された。赤16、黄40、黒9で、当初は黒が搬入されたが救急隊にストップをかけて現在は来ないとのこと。

・搬出は救命できた溺水患者3名をヘリで出した。  
・病院自体に大きな損傷はなく、CT・透析を含めて通常稼働。

13:00～17:00 同院救急外来へ。一時的溺水からの救出、低体温症などの患者を収容した。応急処置、諸検査のあと同院の医師が速やかに入院させた。しかし救急車では意外と患者はこないことが判明した。多くは普通車両で外来前に設置されたトリアージポストを通過して黄色・緑エリアに。院内では帝王切開の手術が施行されていた。

20:00 DMAT会議

・病院の現状報告で、今のところガス以外は通常使用可能

・患者は累積385名。赤34、黄44、緑63、黒9。  
・空床63だが、55名入院した。ヘリで5名搬出した。  
・これまでの様子だといわゆる通常のDMAT活動はあまり必要なさそうだが、撤収は各DMATの元病院と岩手本部DMATと相談してから決める。

3月13日

1:00 輪番で黄色エリアに出向く。呼吸苦を訴えた男性の心電図チェック、喘息発作患者の点滴治療、昨日顔面処置をした患者が化膿して再来。

再度デブリードマンして入院などあり。

7:00 隊長会議

・大船渡病院での昼間の医療活動は同院スタッフで行うこととして、各隊は分散して医療チームが行っていないと思われる各救護所に情報収集と重症患者収容のため向かうことに。秋田のDMATは3時間でこれるので、いったん撤収して再度出直すということになった。

8:00 同院出発し大船渡市内の盛小学校避難所に向かう。

8:15 約300名の避難者がいる同所で、看護室にいた看護師と地元自治会班長などの案内を受け、2班に分かれて1階・2階の避難者の間を巡回した。問題のありそうな人はすでに一部屋に集められていた。同所では高齢者の黄色が数名。

#### 連絡届かずが災害の常、臨機応変に対応を

11:30 DMAT 岩手本部から自衛隊第39連隊と合流して陸前高田で自衛隊のバックアップと救助者がいればその救護をという要請あり。

12:30 病院から2kmほどの気仙養護学校の近くに設営された自衛隊のベースキャンプに到着した。同本部にあって来隊趣旨を説明したが、そのような連絡はないとのこと。

13:30 帰院し本部に報告。さらに綾里地区の避難所に向いて午前中と同様の救護活動をするこ

とになった。

14:00 避難所での常備薬不足が伝えられていたため、大船渡病院からいくらか持参して出発。

14:45 まず綾里の防災本部の建物へ到着。そこで現地の消防責任者と接触し、同行をしていただいて、まず300名避難中の綾里中学校に。重病人はいないとのこと。

16:30 さらにはずれにある越喜来<sup>こきらい</sup>の消防本部に行き、そちらの案内で山奥にある夏虫の里にある避難所に向かった。夏虫の里では、親子の2名のナースが避難者の対応をしていた。黄色タグの外傷傷病者（一度救急車に乗っていたが大船渡にたどり着けなくて戻った人）を1名収容した。

19:00 帰院し、本部に元病院からの指令で撤収することを報告した。

19:30 大船渡を離れ、撤収開始。

20:30 水沢ICから東北道にのり、午後10時半頃山形県内に。深夜になるため、山形で一泊することになった。

3月14日

9:00 山形出発し国道113号線で新発田方面に。途中ほとんどのガソリンスタンドは閉鎖しており、数少ないガソリンスタンドは大渋滞していた。

12:00 多くの職員の出迎えの中を新発田病院に到着した。